

八王子市内の訪問リハビリ事業所に関するアンケート調査

医療法人社団清智会 清智会記念病院 リハビリテーション部

○岸^{キン} 美香 江藤^{ミカ} 明日香 高野 麻耶 澤田 真伍

【はじめに】

当院のリハビリテーション（以下リハビリ）部では、「地域におけるリハビリの中核を担う」、「急性期・回復期・生活期の一貫したリハビリの実現」を目標とし、リハビリの充実を図れるよう取り組んでいる。地域生活を支えるためには、地域生活に従事している訪問リハビリの現状把握が必要と考えた。今回、八王子市内の訪問リハビリ事業所に関するアンケート調査を実施し、部内でディスカッションを行ったため、報告する。

【対象・調査方法】

八王子市内の訪問リハビリ事業所 23 件を対象にアンケート調査を郵送または手渡し形式にて実施した。アンケートの内容は、①訪問件数 ②1 回あたりの平均介入時間 ③利用者 1 人あたりの平均リハビリ提供時間 ④スタッフ構成 ⑤利用者平均年齢 ⑥利用者疾患の割合 ⑦リハビリ終了までの平均期間 ⑧リハビリ介入目的 ⑨リハビリ内容 ⑩質の維持のために取り組んでいる事 ⑪スタッフ間での患者情報共有方法 ⑫医療保険のリハビリに求めるもの であった。

【結果】

アンケート回収数は 13 件(回収率 57%)であった。訪問件数は、事業所当たりでは 11 件/日、セラピスト 1 人当たりでは 5.3 件/日であった。1 回あたりの平均介入時間は、直接介入時間 40～60 分が半数以上を占めており、間接介入時間は 20 分以下が主であった。利用者 1 人あたりの平均リハビリ提供時間は、47.3 分/回、191.25 分/月であった。スタッフ構成は、医師 0.07 人、看護師 3.6 人、PT1.6 人、OT0.6 人、ST0.4 人であった。利用者に関しては、年齢は 70～80 歳台が主であり、利用者の疾患の割合は、脳血管疾患が最も多いが、事業所によって疾患の割合は様々であった。リハビリ終了までの平均期間は、6 ヶ月から 3 年以上まで多岐に渡っていた。リハビリ介入目的は、「歩行能力向上」「基本動作能力向上」「ADL 能力向上」「活動範囲の拡大」が多く、併せてリハビリ内容としても「機能訓練」「歩行訓練」「ADL 訓練」が多く、介入目的と内容に相関が見られた。質の維持のために取り組んでいる事は、症例検討会・研修会参加が挙げられ、スタッフ間での患者情報共有方法は、カンファレンスの開催等が挙げられた。医療保険のリハビリに求めるものは、退院前訪問指導の訪問件数の増加・介護保険の事前申請及び介護保険でのリハビリへのスムーズな移行と連携・顔と顔を合わせての情報共有や詳細な情報提供等の意見が聞かれた。

【今後の課題と展望】

アンケート調査により八王子市内の訪問リハビリの現状が把握できた。さらに、ディスカッションでは訪問リハビリスタッフとの情報伝達や連携の強化が必要であるという結論に至った。今後リハビリ部では、①報告書フォーマットの再検討 ②訪問リハビリスタッフを交えてのカンファレンス実施 ③電話での情報伝達 について取り組んでいきたいと考えている。